

2010

VISIATLASを用いた冠動脈プラークの経時的変化と脂質に関する検討

<はじめに> 冠動脈疾患危険因子の中で、プラークの進展に強く関与していると思われるのは脂質異常症である。今回我々は、血管内超音波画像診断ソフトウェア「VISIATLAS」を用いて冠動脈プラークの経時的変化と脂質について比較検討した。<方法>当院で2009年の8月～2012年の8月の間に、同じ血管に対して2回以上PCIに成功し、同じ部位に2回（4か月以上間隔があいている）IVUSを行った74症例を、1回目と2回目の冠動脈プラーク体積が20%以上増加した群（増加群）21例と20%以上減少した群（減少群）20例に分けて検討を行った。<結果>脂質パラメータの結果からは、TC、LDL-C、L/H比が増加群、減少群ともに減少しており、減少群の方がより大きく減少していた。プラーク体積と組織性状の結果からは増加群では冠動脈プラークのLipid成分の体積が有意に増加しており、逆に減少群では大きく減少していた。両者の比較では有意差はなかった。<結語>冠動脈プラーク増加群と減少群の脂質パラメータ、プラーク体積と組織性状の変化率において有意差はなかった。しかし、冠動脈プラークの経時的な減少にはやはり脂質が大きく関与し、早期のプラーク減少はLipid成分の減少から始まっている可能性があることがわかった。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号